

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
あいさつ 笑顔 思いやり 心をそろえて チーム三日月 ～正しく かしく 美しく～	① 教育目標、重点目標、学年・学級目標の一貫性 ② 確かな学力の向上のための指導法・指導体制の充実 ③ 魅力ある学級経営を目指すとともに、協働体制による学年及び特別支援学級経営の推進 ④ 中学校までの9年間の学びを見通した指導を進める ⑤ 特別支援教育の視点をベースにした個への支援と集団支援の融合

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 教育目標、重点目標、学年・学級目標の一貫性

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	・学校教育目標の具体化と重点目標の明確化ができたか	・教育目標及び経営方針、重点取組について教職員へ周知徹底し、認知度を100%にする。 ・児童や保護者に周知し、認知度を80%以上にする。	・保護者や地域へは、学校便りやHP、育友会総会、地域懇談会等の場で説明を行い、周知を図る。 ・児童には全校朝会や学年集会等を利用して分かりやすく話をしていく。
	○開かれた学校づくり	・学校情報の公開ができたか	・月に1回以上発行予定の学校便りや学年便りをはじめ、各種便りを通して学校情報を発信する。 ・学校HPを随時更新し、情報提供を行う。	・保護者や地域を対象に、教育活動や児童の様子など、学校情報を積極的に発信する。 ・気軽に来校でき、相談しやすい雰囲気の学校づくりに努める。
	○危機管理	・交通事故防止に向けての交通ルール遵守の態度を育てることができたか	・交通ルールを守り、安全に生活しようとする児童の割合を80%以上にする。	・校区内巡回パトロール(週2回)、月1回の交通安全の日の交通立番、年度初め・学期始めの交通立番を職員で実施する。 ・育友会と連携し、ヘルメット着用率100%に取り組む。

② 確かな学力の向上のための指導法・指導体制の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力の向上	・ユニバーサルデザイン化と対話を重視した指導方法の工夫ができたか	・授業についてのアンケートで、75%以上の児童が「よくわかる」と評価する。 ・4～6年の学習状況調査で佐賀県平均以上を目指す。1～3年の標準学力検査CRTでは全国平均以上を目指す。	・課題とまとめを意識し、3つのわかる化を取り入れた授業展開を図る。 ・算数科ではしなやかを意識した授業展開を図り、対話を重視した学習活動を行うことで、深い学びの実現を目指す。また指導法改善の担当者が入る授業においては、児童の実態に応じた少人数指導や習熟度別指導を取り入れる。
		・家庭学習の習慣が定着できたか	・家庭学習の習慣が身に付いている児童を87%以上にする。	・三日月スタンダードに基づき、全校で共通した家庭学習に取り組む。 ・研修部が中心となり、基本的学習習慣の重点を決め、全校で繰り返し実施していく。 ・家庭学習パンフレットを保護者へ周知する。
	○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	・ICT活用を推進することで教育の質が向上したか	・電子黒板・学習用タブレットを活用した授業を行うことで80%以上の児童が「分かりやすい」と評価する。	・電子黒板やタブレットを日常的かつ発展的に活用する。 ・校内研究会を学期に1回以上開催する。
学校運営	○教職員の資質向上	・ユニバーサルデザイン化と対話を重視した指導方法の工夫を行うことで授業力は向上したか	・学校評価アンケートでユニバーサルデザインを取り入れた校内での授業研究会や研修会が充実していると自己評価している教員を80%以上にする。	・教師の指導力向上に向けて、全担任が年間1回以上研究授業に取り組む。 ・UDを取り入れた環境づくりに取り組んでいることを意識できるよう研究会等でも紹介していく。

③ 魅力ある学級経営を目指すとともに、協働体制による学年及び特別支援学級経営の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	・人権・同和教育が充実できたか	・「人権教室」を毎月設定し、命やなまづくりについて考え、意識を高め、アンケートで、思いやりの項目の肯定的評価が昨年度を上回る。	・全教科、全領域で人権に関わる内容を、実態に応じて具体的な事例を用いて指導する。 ・「違つて当たり前」を合い言葉に、違いを受け入れる環境作りを行う。 ・人権教室、平和集会を学級・学年・全校で実施する。
		・居心地のよい学級づくりができたか	・QUを年2回実施し、学級生活満足群の児童の数がどの学級も70%めざす。 ・すすんで挨拶ができる児童を90%以上にする。	・QUの結果分析を行い、指導に活かしたり、朝のふれあいタイム等で支持的風土作りに取り組む。 ・挨拶運動は、学校だけでなく、育友会とも協力し、家庭や地域へ働きかける。また、運営委員会ともタイアップし朝の挨拶運動を奨励する。
	●いじめ問題への対応	・いじめのない学級・学校づくりができたか	・いじめをしない・許さない学校づくりの意識を高めるとともに、生徒指導上の諸問題に対する未然防止、早期発見、早期対応に務める。 ・心のアンケートで「学校が楽しい」と回答する児童を90%以上にする。	・教育相談部と連携して、心のアンケートを毎月10日をめどに実施し、いじめ早期発見と防止の徹底を図る。 ・全校朝会や学年朝会、全校放送などで友達づくりに関わる話をする。

④ 中学校までの9年間の学びを見通した指導を進める

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○小中連携	・小中で児童・生徒の情報を共有し、スムーズな移行を図ることができたか	小、中互いの学校の情報交換を行うことにより、スムーズな接続に努め、中1ギャップの防止に努める。	6年担任、教育相談担当、生徒指導担当が中学校の担当者として、年間2回以上情報交換会を行う。
		・9年間の学びを見通し、基本的な生活習慣や学習習慣の育成に努めることができたか	小中合同の会議や研修会を計画的に行い、9年間の学びを見通した児童・生徒像を共通理解した上で、教育活動を展開する。	お互いの学校の授業を公開し、研究会に参加をする。また、生徒指導や教育相談に関わる合同の研修会を開き、課題を共有し解決を図る。
	●志を高める教育	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動を行ったか。	・難しい問題でもあきらめずに取り組む児童、勉強ができるようになるうたとがんばる児童の割合80%をめざす。 ・一人一人に学校や学級で活躍できる場を与えることで集団の一員としての自覚を高め、クラスの友だちに認められていると感じている児童70%をめざす。	・毎学期始めに、学習や生活に関する個人の目標を設定させ、振り返り、自らの頑張りを自覚する時間を設ける。 ・教職員が率先して児童の頑張りを認める声かけを行うと共に、学級や学年で友だちのよさを見つける取り組みを継続して行う。
○読書活動	・将来にわたって読書に親しむ児童の育成ができたか	発達段階に応じた読書の奨励をし、全校的に読書の習慣が広がるように努める。	学年ごとに年間読書目標数を決め、(1～4年生:80冊、5、6年生:100冊)目標達成に向けた読書活動を推進する。	

⑤ 特別支援教育の視点をベースにした個への支援と集団支援の融合

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○特別支援教育	・個別に支援が必要な児童に対し、支援方法の検討、実施、評価を行うことができたか	・対象児童の実態把握および特性の理解に努め、特性に合った支援を行う。 ・対象児童の支援を検討することを目的とした校内委員会の活性化に努める。	・校内支援体制の流れについて周知を図り、対象児童の情報を整理、共有した上で支援方法を検討することの有用性を明らかにする。 ・通常学級でできる支援方法を内容とした校内研修を行う。
	○生徒指導	・教育相談を充実させているか	・児童理解を進めるために、教育相談研修会を開催し、不登校や問題行動の予防に努める。 ・スクールカウンセラーや各種専門機関と連携して、教育相談活動を充実させていく。	・気になる児童について全職員で情報を共有したり、必要に応じてケース会議を開いたりして支援に努める。 ・1学期は教育相談週間を設け、担任と個別に話す機会をつくり、2学期は担任への手紙を書かせることでラポート関係づくりに努める。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	・望ましい生活習慣の形成を推進できたか	・規則正しい生活習慣を身につけるために、保健室3つの約束(睡眠・清潔・笑顔)を意識させる、朝食摂取率を95%を上回る。	・立腰教育、ノーテレビノーゲームデーを推進すると共に、保健室では、けんきカード、生活衛生チェックで保健室の3つの約束の意識を高める指導を実施する。給食では、給食日常点検表を活用して指導をし、健康的な生活習慣の意識を高める。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・時間外勤務時間を昨年より削減することができたか	・やりがいを持って仕事に取り組む教職員の割合を80%以上にする。 ・時間外勤務時間が、昨年度平均の48時間36分を下回る。 ・自分の校務分掌を見直し、改善できた教職員の割合を80%以上にする。	・報告・連絡・相談の徹底を図り、学年や全体でそろえるべきところはそろえる。 ・前年度より勤務時間を減らすために、学年で目標を定め、声を掛け合う。 ・閲覧版の活用で、会議や連絡会の時間を短縮するとともに、自分の校務分掌の改善を図る。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目